

香芝市都市経営市民会議における委員意見

＜まちの将来像について＞

- ・市民が共有する言葉（キャッチコピー）に英語を使うことについて、英語に馴染みのない世代もいる。英語を使うにしても、市民全員に伝わりやすいように考えていただきたい。
- ・「キャッチコピー」だけで市のビジョンの全てを伝えることはできないが、リーディングワードとして何が適切かということを考えていく必要がある。
- ・5案のうち、No. 3にだけ「かしば」という言葉が入っていない。最後に「かしば」がついていないと言葉足らずに感じる。
- ・No. 4は、最近話題のSDGsでも色分けして考えていく動きがあるが、それを香芝風にアレンジしていて印象がよい。「カラフルかしばのアイコンをつくり、アイコンバッチを職員がつければチーム感が出て・・・」という説明があったが、表向きだけではなく、窓口を訪れる市民もチームの一員という気持ちで対応できるように、職員の意識も一緒に変えていってもらいたい。
- ・最終的に「まちの将来像」がどの程度実現できたのかを確認する方法を考えておいた方がよい。

＜政策・施策体系について＞

- ・A案について。「産業・文化・連携」という言葉が同列に並んでいることが気になる。
- ・B案について。「文化」という言葉が政策から消えているが、文化政策や地域文化の振興は、香芝の未来にとって大きなファクターとなる気がしており、政策の名称に「文化」という言葉を残しておくほうがよい。
- ・B案について。政策03の名称に「生涯学習」という言葉が使われているが、「生涯学習」は、本来、子どもの教育も学校教育も含む言葉である。政策01の教育関連施策も含む言葉であることを考えると、政策03の名称として「生涯学習」を使っているのには違和感がある。

- ・ A案・B案について。「農業」も「産業」に含まれるので、B案の政策04で「産業」と「農業」が並んで書かれていることについては整理が必要。
- ・ A案・B案について。現行より、住民に分かりやすい並びになっている。
- ・ 現行の総合計画に「感染症予防」という項目はあるが、事業内容が「啓発」で終わってしまっており、いかにも平和状態の計画である。次期総合計画では、危機管理に関して1章を起す必要があるのではないかと。
- ・ 現行の総合計画において「協働によるまちづくり」が、基本的な行動方針であったはずだが、この10年間であまり進化していないように見受けられる。次期総合計画では、市民、団体、行政の3つでなすべきことを進めることで効果が出てくるということを各章で示すよう、各部署に指令を出していただきたい。「協働」を具体的に実現する方向にステップアップしないと、県内で最も遅れた総合計画になりかねない。
- ・ 総合戦略の基本目標4：施策11「公共施設などの維持・向上」について、この施策は第4次総合計画の施策34「財政運営の健全化」にリンクしていると思うが、資産の財政状態をより前面に出していくべき。公共施設等の維持管理は今後より重要な課題となってくるので、第5次総合計画での位置づけの仕方も含めて考えていくこと。
- ・ 「防災」という視点から、市民の抱えているさまざまな問題を解決できるのではないかと。たとえば第4次総合計画でいう7つの政策分野それぞれに「防災」をキーワードとした施策を盛り込むことで、防災コミュニティの醸成や、各政策が連携した普段からのまちづくりにつなげていくことができるのではないかと。

<総合計画策定の体制について>

- ・ 庁内体制の一つとして「課長級以下会議」とあるが、ぜひ若手職員が参加するようにしてほしい。まちの未来について協議するワーキングチームという位置付けなのであれば、その場で若手職員がしっかり議論することが大切である。
- ・ 庁内に若手の20代、30代、40代のワーキングチームをつくっていくことは良いことである。総合計画と公共施設の総合管理計画はどちらも非常に重要な計画で、財政に関わってくる。この2つは住民の意見を聞くというのも、もちろん大前

提であるが、市内でも若手の 20 代、30 代、40 代そして女性も含めてメンバーに入れて協議してほしい。

<市民アンケート・中学生アンケートについて>

・住民の方のアンケートというのはどうしても目の前にある課題を何とかしたいというようところに集中することが多い。具体的には病院をどうにかしてほしい、道路をどうにかしてほしいというような喫緊の課題が満足度とか重要度にも反映されているように感じた。まちづくりというのは、10 年後 100 年後どうありたいかという大きなビジョンが必要であるので、その中でこれをいかに活用していくかというところが極めて大切である。また、国から言われたことなどを事務的にこなすだけに陥ってしまうのではなくて、わくわくしていける部分も大切にしていけるべき。

・市民アンケートの結果速報を見せていただいて、「後に回してもやむを得ないと思う施策」の中に、文化的な施策がほとんど入っている現状だが、そのあたりのところを逆に魅力とした内容の施策をつくっていただきたい。

・実際に香芝の施設で子育てをしている者としては、子育てアンケート結果はやはりその通りだと思った。今回分析してまとめていただいているので、主婦の意見も汲んだ施策をつくってほしい。

・アンケート結果において、このままずっと住みたいという方のパーセンテージが増えていることに甘えることなく、しっかりやってもらいたい。予想としては人口が増え続けると香芝市は思っていたけれども、現実としては減少傾向に落ちてきている。どこの自治体もみんな必死で、人口の取り合いになってくる。

・香芝市の一番のストロングポイントは、人口が減っていないこと。その人口維持がやはり喫緊の課題なので、今後の政策の一つの大きな柱かと思う。アンケートを受けて、今の香芝市民だけにフォーカスするのではなくて、対外的に魅力のある、「香芝市がいいな」と、他から来てもらえるような、そういうことを意識した戦略をつくってほしい。

・アンケートの「わからない」「その他」「不明・無回答」も分析の必要がある。

・アンケートの回収率が 36.25%だが、目標回収率 60%で、前回は 41.9%なので、回収率を何とかもう少し高める方法を考えないといけない。回答を出さない人た

ちの意向については別の分析をしないとイケない。

・重要度と満足度の調査は一般的だが、潜在意識までは掴みきれないことも踏まえて、次の総合計画は少し慎重に奥行きが深い2段3段構えの、例えば福祉と教育と防災などの連動性を意識したコンプレックス(複合的な政策)を考えなければいけない。今までのような、縦割りでそれぞれが実施する計画ではなく、互いに助け合いするような部局の活動の仕方を意図的に設計しないと、これからやっていけない時代がくるかもしれない。

・中学生アンケートにおいて、市役所の職員と対話があったら参加するという回答が圧倒的に少ない。青年予備軍に対するアクセスをもっとしないとイケない。小中学生に対して、香芝ってこんなまちだよ、素敵なお町だよ、というメッセージを送るということをもっとやってくるべきだったと思う。次の計画は少し真剣に危機意識をもって取り組んだほうがいい。

・人口の伸びが止まり、急激な高齢化が起こると瞬時にして財政悪化がやってくる。香芝はまだそこまでいってないけれど、政策に対する危機感が市民も薄いというのが気になる。これまでの政策にも弱点があるのかもしれない。ニュータウン型で地価もどんどん上がってきて、人口も増えてきて、子育てしやすい町を目指していたらイケると思っていたらダメだ。そういう意味ではもう少し気を引き締めてもらいたい。

以上